

内視鏡外科手術における研究と治療の進歩

巻頭言

東京女子医科大学第二外科

カミオ タカコ
神尾 孝子

内視鏡外科手術の源流は、1978年に行われたSemmによる腹腔鏡下婦人科手術にさかのぼるが、これが爆発的に普及するきっかけとなったのは、1987年フランスのMouretがCCDカメラを用いて行った腹腔鏡下胆嚢摘出術である。1990年代に入り本邦にも導入され、消化器外科をはじめとして、外科系全般（胸部外科、泌尿器科、内分泌外科、婦人科、整形外科、小児外科、脳神経外科など）に急速に普及してきた。

内視鏡外科手術の最大の特徴は低侵襲性であり、安全性や術後の長期成績も従来の手術法に比べて遜色のないことが示されてきたが、同時にそれぞれの臓器や疾患特有の問題点があることも指摘されている。手術器械や周辺機器の開発・改良、手術手技の進歩に伴い、手術に携わる外科医の教育やトレーニング

システム確立も重要な課題となっている。

今後はさらに、手術用ロボットや遠隔操作技術の進歩普及、NOTES (natural orifice transluminal endoscopic surgery) と呼ばれる新たな手術法の展開も期待されている。NOTESとは、体表に傷をつけず自然孔(natural orifice)である口や肛門、膣などから手術機能を有した内視鏡を挿入し、管腔臓器を経て胸腹腔内に到達させ手術を行うというものである。

内視鏡外科手術に対するさまざまな観点からのチャレンジは低侵襲手術をめざす世界的潮流の中でとどまることなく続けられている。

本シリーズでは、内視鏡外科手術の研究と治療の進歩をテーマに、臓器ごとにその現況と最新の知見をわかりやすく解説していただいた。

表 執筆者とその内容

執筆者	所属	テーマ
神尾孝子	外科学(第二)	巻頭言
神崎正人	外科学(第一)	胸部外科領域
笹川 剛	消化器外科学	消化器外科領域 ①上部消化管：胃癌
板橋道朗	外科学(第二)	消化器外科領域 ②下部消化管：大腸癌
中島一朗	腎臓外科	泌尿器科領域 ①腎臓
飯塚淳平	泌尿器科学	泌尿器科領域 ②前立腺
飯原雅季	内分泌外科	内分泌外科領域
橋本和法	産婦人科学	婦人科領域
村田泰章	整形外科	整形外科領域
木附 宏	戸田中央総合病院脳神経外科	脳神経外科領域
伊関 洋	先端生命医科学研究所	内視鏡の今後の展望

※小児外科領域は「世川 修：小児科領域における研究と治療の進歩(12)小児内視鏡(腹腔鏡・胸腔鏡)手術. 81(5):356-362, 2011」をご覧ください。